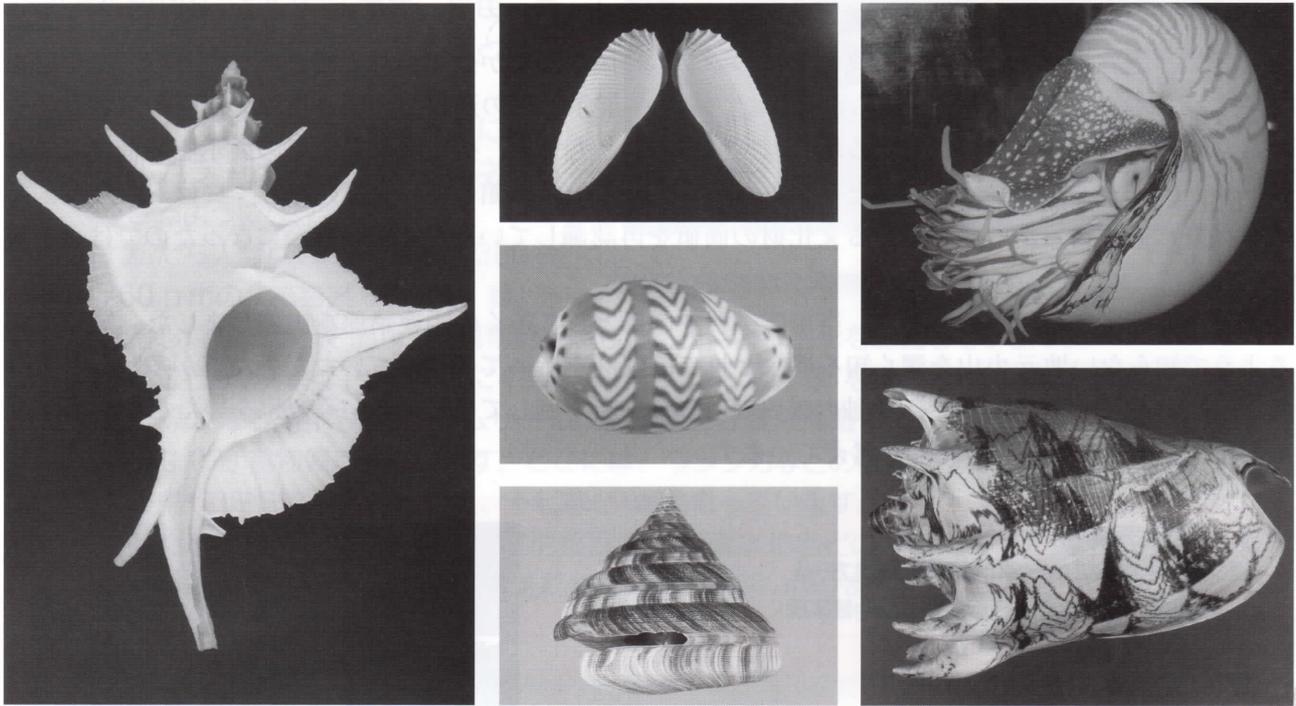


小山市立博物館

博物館だより

2015
3.15

60



栃木県立博物館地域移動博物館

き き か い か い 嬉々貝貝

～私は貝を愛でたい～

平成27年4月18日(土)～5月31日(日)

貝類は、5億4000万年以上も前の古生代カンブリア紀の初めに出現し、現存のものは世界に10万種、日本に5500種以上あると言われています。多くは固い貝殻を持ち水中で静かに暮らしていますが、形態や生活のようすはさまざまです。貝殻のないイカやタコ、陸上で生活するカタツムリやナメクジなども貝類の仲間です。

今回の展示では、「貝類」をテーマに、「さまざまな環境とそこにすむ貝類の特徴」「貝類のくらしのようす」「人と貝類の関わり」について紹介します。そして、世界最大の「オオシャコガイ」や世界の三名宝と唱われる「オウサマダカラガイ」、「シンセイダカラガイ」、「サラサタカラガイ」などの展示もします。大きい貝や小さい貝、珍しい貝から美しい貝まで、嬉々として貝を愛でていただければ幸いです。

■ 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) **入館料 無料**

■ 休館日 4/20(月)・24(金)・27(月)・30(木)、5/11(月)・18(月)・22(金)・25(月)

(写真) 左列：ガンゼキバシヨウガイ 右列上から：オウムガイ、ミヒカリココロギボラ
中央上から：テンシツツバサガイ、アジロダカラガイ、ベニオキナエビスガイ
写真はすべて栃木県立博物館提供

「指定文化財でふりかえる小山の歴史」を終えて

平成26年11月1日から平成27年1月12日まで、市制60周年を記念して小山の指定文化財を紹介する展示を開催しました。

小山の歴史の流れにそって文化財を展示し、それらが生まれた時代背景とともに文化財を認識していただくことで、個々の文化財の意義をより深く理解していただくことができるよう展示構成を考えました。特に、寺社や個人が所蔵する文化財については日頃なかなか公開される機会がないため、文化財を熱心に見入る来館者の姿が多く見られました。また、展示準備の過程で必要となる文化財所蔵者とのやりとりから、文化財が置かれている現状も把握することもでき、折に触れ文化財の展示を開催することの意義が、様々な面から大きいことを実感させられました。来館していただいた方々にはもちろん、所蔵者の方にも、自らが所蔵している文化財の価値を再認識していただくよい機会になったのではないかと思います。

展示の期間中には以下のとおり、本市学芸員を講師として多くの関連講座を実施しました。知っているようで知らない地元小山を深く知る機会として、興味を持って参加していただいた方が多かったようです。展示期間が終了しても、単独の講座として今後も実施してほしいという要望をいただき、来年度の講座計画に生かしていけたらと考えています。

1. 記念講演会

「文化財とはなにか～文化財保護の考え方～」

講師 元文化庁主任調査官 菊池健策氏 参加者67名

2. ここが知りたい小山の歴史

◇古代編「古墳が語る小山～琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳を中心に」

鈴木一男(考古担当学芸員・車屋美術館) 参加者30名

◇中世編「中世小山の都市景観～小山氏の城と神鳥谷曲輪」

秋山隆雄(考古担当学芸員・文化振興課) 参加者30名

◇近世編「幕末小山の戊辰戦争」

尾上仁美(近世担当学芸員・博物館) 参加者30名

◇近代編「発展の礎 小山の養蚕」

小川聖(民俗担当学芸員・博物館) 参加者18名

3. 小山の文化財めぐり

◇古代編〔琵琶塚、摩利支天塚古墳・寺野東遺跡他〕

野口静男(考古担当学芸員・文化振興課) 参加者13名

◇中世編〔祇園城跡・天翁院・鷲城他〕

佐久間弘行(中世担当学芸員・企画政策課) 参加者20名

◇近世編〔乙女河岸・小山評定跡・飯塚一里塚他〕

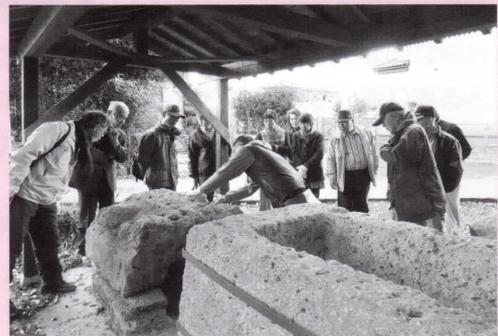
尾上仁美(近世担当学芸員・博物館) 参加者12名

◇近代編〔若駒酒造・小川家住宅・生井の水塚他〕

山田淳子(民俗担当学芸員・博物館) 参加者14名



「ここが知りたい小山の歴史」 中世編



「小山の文化財めぐり」 古代編



「小山の文化財めぐり」 近代編 (若駒酒造)

季節の一枚

「鳥と青色LED」

人類は、青色発光ダイオード作成に成功し、ついに、赤色、緑色、青色の光の三原色を手にすることができました。

おかげで、発光ダイオードによるフルカラーが可能となり省エネ化もできるようになりました。

私たち人類は、20万年前、380～760 nmの3視物質(赤、青、緑)を獲得し現在に至っており、3視物質を感じるにより色彩を認識しています。

ところが、鳥類は1.6億年前に4視物質(赤、青、緑、紫外線)を獲得しています。鳥類は、紫外線の見える目を持ち、ラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地を上空から私たちより高度な(?)視物質で見えています。ここには、ワシタカなどの猛禽類をはじめ、たくさんの野鳥(コミミズク、チュウヒ、トビなど)が集まっています。

私たちの見るラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地とどのように違って見えるのでしょうか。思いを膨らませこの地を訪れるのも感慨深い物があります。



(撮影 舞坂 康一氏)

市内全小学校で太陽観測

出前授業「天文教室」

当館では、平成19年度より、移動式天体望遠鏡搭載車「ほっしー★OYAMA号」を導入し、毎月行う天体観望会の他に市内の小学校6年生を中心に「天文教室」を実施しています。

屋外では、フィルター付きの望遠鏡を使って太陽観測を行い、太陽の表面や黒点のようすを観察しています。太陽についての解説も行いますが、手作りの太陽系の惑星の模型を使って大きさを比較するなど、子どもたちが太陽の大きさをより実感できるようにしています。

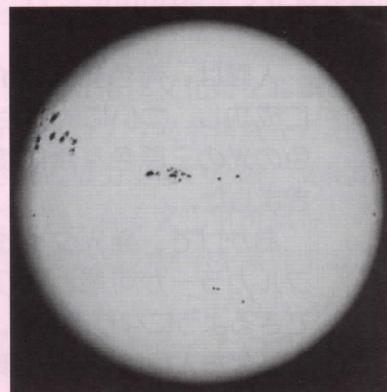
室内では、シミュレーションソフトを使って月の動きを確認した後に、体育館の広いスペースを利用して月の満ち欠けのモデル実験を行っています。その他にも、コンピュータソフトを使って太陽系の仕組みを解説したり、宇宙のつくりや広がりについて紹介したりするなど、学校の要望に応じて対応させていただきます。

これらの体験学習を通して、太陽や月についての理解を深めてもらうだけでなく、宇宙への興味やあこがれをもってもらうきっかけになればと思っています。



平成27年度前期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場で太陽観測を行い、夜は生井公民館で季節ごとに見られる星座や星の観測や紹介を行います。これからの季節の見どころといえば、なんと言っても「土星」でしょう。太陽系で2番目に大きな惑星で、大きなリングが特徴的で美しい土星が、初夏から夏にかけて観測シーズンに入ります。「ほっしー★OYAMA」号搭載の望遠鏡をのぞいてみましょう。そこには、なんと、土星のリングが真っ暗な宇宙に美しく浮かび上がっているはずです。観望会の会場では、「土星ってどんな星なの？」「土星と地球を比べてみよう！」などの解説もしています。また、星座としては、「しし座」「おとめ座」「はくちょう座」「夏の大三角」などが夜空に大きく現れます。はくちょう座の頭の部分の星「アルビレオ」は、オレンジ色と青色の二重星です。さらに、4月4日(土)には「皆既月食」があります。第2土曜日ではありませんが、博物館では臨時観望会を開催します。一緒に月が欠けていくようすを見てみませんか。



観望会の日

11時から12時30分には、博物館駐車場で「太陽観測会」を実施しています。写真は、太陽の黒点です。

コラム 博物館職員雑記帳

歲月人を待たず

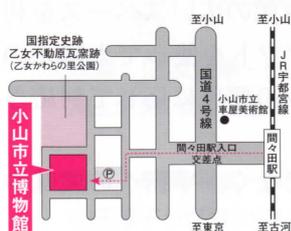
業務係長 学芸員 小川 聖

建設当時に植えられた緋寒桜の蕾も大きくなり、間もなく博物館で33回目の開花を迎えようとしている。早いもので開館準備作業に追われ、深夜まで残業したことがつい昨日のように思い起こされる。しかしそこからの過ぎし日々を思う時、還暦の年となって退職を迎えた今、いったい何を成してきたのか反省しきりである。それでも県内初の市立博物館として、地域に根差した企画立案、体験学習や講座運営など、様々な活動の中で試行錯誤を行いながらも、他館にない独自色を出せたことは多少の誇りとするところでもある。思えば博物館らしからぬ事業もあり、稲作民具の使い方を実際に田圃を借りて米を栽培しながら体験してみたり、小学校の教室へ民具を持ち込んで授業を行なうなど、かなり先進的な試みを行ったものである。今でこそ博学連携などといわれるが、当時は本当に手探りの状態で、振り返るとよく実施できたものと感心している。博物館から離れる身ではあるが、小山市博は今後とも猝にとられない斬新的な活動を行なってほしいものと期待する。

寄贈者芳名

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

■ 宇佐美 良子(小山市) 釜・蒸し器他 11点 ■ 平間 一彰(小山町) 唐箕 1台



発行年月日 平成27年3月15日
 発行 小山市立博物館
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/>
 印刷 株式会社ダイサン小山